

2016 年度 国際ユース作文コンテスト受賞者

参加国数：153 カ国

応募総数：合計 12,937 作品（子どもの部 4,353 作品、若者の部 8,584 作品）

文部科学大臣賞（最優秀賞）（各 1 点）

<子どもの部>

- 『ジャングルを制する』
スージャ（ソフィア）・リャン
（中国＜米国在住＞）14 歳

<若者の部>

- 『夢と豊かさ』
小仁井 茅春（東京都）17 歳

優秀賞（各 2 点）

<子どもの部>

- 『無数の雲をつむぐ教育を』
キャリー・スー（米国ニューヨーク州）13 歳
- 『教育と人格』
加藤 穂乃佳（静岡県）14 歳

<若者の部>

- 『理想の教育制度』
イース・セヴェネイ（トルコ）16 歳
- 『世界の問題に気づくための教育』
ヘイリー・パイエット（セーシェル）16 歳

入選（各 5 点）

<子どもの部>

- アンゲル・マリア（ルーマニア）9 歳
- 君和田 大輝（東京都）10 歳
- キンリー・カムスン・レンダップ
（ブータン）13 歳
- アリーナ・ラスク（ルーマニア）14 歳
- 植野 千夏（長野県）14 歳

<若者の部>

- 伊藤 真彩（愛知県）15 歳
- 畑岡 美代（広島県）16 歳
- プリーティカ・ラヴィラジャ（インド）18 歳
- ピトウ・ケオ（カンボジア＜英国在住＞）19 歳
- イン・チン・ティー（マレーシア）25 歳

佳作

<子どもの部>（25 点）

- 仲村 遥（東京都）9 歳
- マリアム・ダニヤ・アジール（モルディブ）9 歳
- オードリー・チェリリン・イルハム
（インドネシア）10 歳
- ユアン・チェン（台湾）11 歳
- アーディチャ・シン
（インド＜アラブ首長国連邦在住＞）12 歳
- アドルフォ・マンドゥハノ・ララ
（メキシコ）12 歳

<若者の部>（24 点）

- スジン・チョー（韓国＜米国在住＞）15 歳
- アリシア・マリー・ゴケル（ドイツ）16 歳
- チュラン・リシケシュ（モーリシャス）16 歳
- エミリー・ハン（韓国＜フィリピン在住＞）16 歳
- 今岡 称（大阪府）16 歳
- プラティック・カッフル（ネパール）16 歳
- 佐藤 りさ（東京都）16 歳
- ヨハネス・ラン（オーストリア）17 歳
- リン・ドー（ベトナム）17 歳

- ジャッキー・キアニ・スハナ
(インドネシア) 12 歳
- ムハマッド・サリム (パキスタン) 12 歳
- 高須 結万 (和歌山県) 12 歳
- ザイナブ・ハッサン (パキスタン) 12 歳
- ダニエヤ・ガネイシュ (マレーシア) 13 歳
- ハシャン・ジャヤティラカ (スリランカ) 13 歳
- 菊池 愛 (東京都) 13 歳
- ジョエル・アンドリユー・マラーリ
(フィリピン) 13 歳
- マヌエラ・ファルディーニ・マルヘイロ・デ・オリベイラ (ブラジル) 13 歳
- ソーウォン・リー (韓国・ソウル市) 13 歳
- 佐々木 杏 (東京都) 14 歳
- マルセロ・ライネル・ロマン・アブストス
(コロンビア) 14 歳
- マーガレット・ジェン (米国) 14 歳
- マリアム・ビント・イムラン (パキスタン) 14 歳
- 山口 尚紀 (千葉県) 14 歳
- ラジャシュリー・チョウドゥリー (インド) 14 歳
- 山崎 亮太郎 (東京都) 14 歳
- 大場 桐子 (東京都) 14 歳
- 清木 佳奈 (東京都) 15 歳
- 笠原 大夢 (東京都) 18 歳
- レナト・バレンティン (ブラジル) 18 歳
- ヒメネス・アフマーダ・デリア (メキシコ) 19 歳
- マリア・ホセ・ブレネス・アルバレス
(コスタリカ) 20 歳
- マリア・ヒッサ (タンザニア) 21 歳
- ディマ・サマロ (パレスチナ) 22 歳
- キム・トー・レー (ベトナム) 22 歳
- オレナ・シトニック (ウクライナ) 22 歳
- ラーマ・フェブリアンティ (インドネシア) 22 歳
- サンドラ・ルイス・ジャマス (メキシコ) 22 歳
- アナ＝リーサ・チュイキン (エストニア) 23 歳
- アナスタシーア・カンダウローヴァ (ロシア) 24 歳
- メリナ・ネオフィトウ (キプロス) 24 歳
- シェーダ・ジーナット・ジュナイド
(パキスタン) 24 歳
- ネオ・モエティ (レソト) 25 歳

学校特別賞

該当校なし

学校奨励賞 (43 校)

- イスカンダル学校 (モルディブ)
- オオウ・ラソ・トゥルポフスキ
(マケドニア・スコピエ市)
- 沖縄尚学高等学校附属中学校 (沖縄県)
- 京都学園中学高等学校 (京都府)
- グアダラハラ大学附属第 8 高等学校
(メキシコ・ハリスコ州)
- 国土館中学校 (東京都)
- サドウ・バスワニ女子インターナショナル・スクール (インド・ニューデリー市)
- 茨城県立古河中等教育学校 (茨城県)
- 大田区立大森第六中学校 (東京都)
- オリゾンテス・スクール (ボリビア・ラパス市)
- 近畿大学附属和歌山中学校 (和歌山県)
- こくご塾 KURU (東京都)
- サトリウイッチャヤ・スクール
(タイ・バンコク都)
- 佐野日本大学中等教育学校 (栃木県)

- シカゴ補習授業校（米国イリノイ州）
- シック・コン・ミン・カワンガン・ケドゥア学校（マレーシア）
- 昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校（東京都）
- 第 1 学校（ベラルーシ・ブレスト市）
- 椋山女学園大学附属小学校（愛知県）
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都）
- 中部テネシー日本語補習校（米国テネシー州）
- 帝京高等学校（東京都）
- ヌエボ・レオン自治大学附属第 28 高等学校（メキシコ・ヌエボ・レオン州）
- パデレフスキ私立グラマースクール（ポーランド・ルブリン市）
- プエブラ栄誉州立自治大学（メキシコ）
- 不二聖心女子学院（静岡県）
- 名城大学附属高等学校（愛知県）
- ルーツ・ミレニアム・スクールズ（パキスタン・イスラマバード市）
- 早稲田大学系属早稲田渋谷シンガポール校（シンガポール）
- シガラム・アカデミー・オブ・エクセレンス（インド・タミル・ナードゥ州）
- 城南学園中学校・高等学校（大阪府）
- ジョホールバル・レリジャス国立中等教育学校（マレーシア・ジョホールバル市）
- 第 12 学校（ベラルーシ・ミンスク市）
- ツァフェル中学校（ブータン・八県）
- 東京学芸大学附属世田谷中学校（東京都）
- チューリッヒ日本人学校日本語補習校（スイス・チューリッヒ市）
- ニコライ・リョーリフ・インスティテュート（メキシコ・メキシコ州）
- ハイランド・ルーテル・インターナショナル・スクール（パプアニューギニア・エンガ州）
- 広島なぎさ中学校・高等学校（広島県）
- 福島県立あさか開成高等学校（福島県）
- 松本秀峰中等教育学校（長野県）
- 立教英国学院（英国ウェスト・サセックス州）
- 連邦政府立カッパ女子大学（ナイジェリア・コギ州）

ジャングルを制する

（原文は英語）

スージャ（ソフィア）・リャン（14 歳）

中国<米国ニュージャージー州在住>

チェリー・ヒル・ハイスクール・イースト

1 日 7 時間、週 5 日、私はジャングルで生きています。もちろん、木々がそびえ、ツタが絡まるあのジャングルではありません。私のジャングルは、赤レンガの壁とぞうげ色のタイルでできています。この生態系は、サルや大蛇やオウムではなく、医者を目指している人、弁護士の卵、やがてエンジニアとなる動物で構成されています。これらの動物は互いにわめき、甲高い声を上げ、カラスのように騒がしく、微積分のテストの点数や英語の小論文の評価を競い合っています。他のジャングルと同じように、ここにも序列があります。学生たちは食物連鎖の頂点に立とうと、恥ずかしげもなくカンニングや盗作をし、血に飢えた獣のように相手を引き裂こうとします。このむき出しの野性の世界を見回すと、私はクラスメートがかわいそうに思えてしまいます。彼らは夜ふけまで、へとへとになるまで勉強し、ギターをひいたり、絵を描いたりという楽しみをあきらめて、家庭教師につき、優等生を目指さざるを得ず、知性や才能はパーセンテージ、パーセンタイル、政府によって義務づけられたテストで決まると信じ込まされています。自分の学校を見ていると、どうすればこの状況が変えられるのだろうと、思わずにはいられません。



アルバート・アインシュタインの有名な言葉が思い出されます。「誰もが天才だ。でも、魚を木に登れるかどうかで判断したら、魚は一生、自分はばかだと信じて生きるだろう」。もし、アインシュタインの言葉が正しいければ、ヒラメを森に突っ込むような今の教育制度は、ずいぶん人の資質を無駄にしていると言えます。学生は、生産ラインの商品のように、画一的な標準に合うよう、評価とテストの点数と課外活動で型にはめられていくのです。クラスでの順位、標準テストほか成績を測る限られた方法は、どれも知力とはたった一種類しかなく、観察や判断する方法も一つしかないという考えの表れです。むなしい答案用紙に記入することでは測れない技能や情熱を持っている学生は、持って生まれた素質を生かせません。組み立て工場のような教育制度の結果、世界は型破りで独特な若者たちを失っています。こうした若者こそ、私たちが国際社会の一員として直面している複雑な問題を解決するために欠かせません。

ですから、魚に木登りを強いるのではなく、形も大きさも能力も異なるさまざまな生き物すべてが、ジャングルのバランスを保つために重要な役割を演じていることに気づく必要があります。教室では、生徒同士に競争ではなく、協力をさせるべきです。野生動物は生命の網のなかで、依存し合って生き延びています。学生も同じようにクラスメートと依存し合い、お互いに学び、成長していきます。クラスでの順位づけを学校はやめるべきです。学生は、クラスメートを競争者、敵と考えるだけです。教科書と講義と暗記が中心の勉強ではなく、さまざまな才能を集めなければならないようなプロジェクトを教育者は与えるべきです。マルチメディアを活用する、対話式の発表を行う、実際に何かを試してみる。そうした授業は、創造的で忘れられないものとなるでしょう。今はさまざまなテクノロジーを利用できるので、いつまでもパワーポイントや練習問題だけにしがみついている理由はありません。子どもたちにモデルを作らせたり、発明をさせたり、その分野での専門家と意見を交換することだって、コンピューターでごく簡単にできるのです。さらに学生の評価も、A、B、C、Dから単に選ばせるだけでなく、問題解決能力や現実の世界への応用力も含め、総合的に判断してほしいです。こうした総合的な教育は、学生に情熱を抱かせ、批判的に物事を考える力や独創的な思考を養い、どんなタイプの学生でも、その人ならではの能力を生かす機会を与えるものです。

私たちの世界は変化しつつあります。昔ながらの教育の基準は、もはや時代についていけなくなっています。21世紀は、発明家とエンジニアと起業家の時代です。人とぶつかり合うのではなく、話し合い、競い合うのではなく、協力し合うことをしなければ成功は望めません。現代の多くの国際問題に取り組めるのは、多様で好奇心が強く、創造性のある世代だけです。より明るい未来は、熱心な教育者と独創的な学生がいる教室から始まります。確かに、「世界はジャングルだ」という歌の通りなのでしょう。でも、学校にはジャングルを制することのできる次世代のリーダーを育てる力があるのです。

2016 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

夢と豊かさ

（原文）

小仁井 茅春（17 歳）

東京都

杉並総合高等学校

「あなたの夢は何ですか？」

高校の推薦入試、面接官に尋ねられた。

待っていましたとばかりに、用意していた言葉はスルスルと私の口から出ていく。

しかし、反対に心はこう言っていた。

「そんなものあるわけじゃないか」と。

日本人の年間の自殺者は 3 万 5000 人。先進国でも、一番の数字だ。日本は豊かなはずなのに、どうしてこんなにたくさんの人が死ぬのか。幼い頃からずっと疑問だった。

しかし、高校生になって理由が分かった気がする。私には夢がなかった。

中学生の頃、学校の先生に、「将来、医者になって、途上国の子どもたちを救いたい」と言ったら、口では「いいね。偉いね」と、言いながら、彼が小さく鼻で笑ったのを私は見逃さなかった。何度も憧れた職業を、自分には無理だと諦め、夢を捨て、段々と私の心は空っぽになっていった。

そんな私にある転機が訪れた。

高校 2 年生の時に、夏休みにインドネシアの孤児院で 1 カ月ボランティアをするという広告を見つけた。幼い頃から、国際協力をするのが夢だった私は、すぐに行くことを決意した。

現地で待っていたのは、日本とあまりにも違う環境だった。

しかし、その辛さの何倍も、私は現地で過ごすことが楽しかった。

私にとって、そこにあったものは、日本にはない全てだった。

普段は両親が遅くて 1 人で食べていた食事を、現地では 60 人の家族で食卓を囲んだ。

起きるのが億劫だった朝も、子どもたちのとても美しい聖歌で気持ちよく目覚めた。

50 人の子どもたちは、様々な事情を抱えて孤児院にやってくる。精一杯生きる子どもたちに数え切れないくらい沢山のことを教えてもらった。

しかし、滞在してずいぶん経った時、ショックな出来事に会う。



それは、七夕を子どもたちで行った時だった。

「あなたの夢は何ですか?」。子どもたちに聞いて、短冊を配った。返ってきた短冊を見て、私はショックを受けた。50 人の子どもが書いた短冊には、たった 5 種類の職業しか書かれていなかったからだ。何故だと孤児院のスタッフに聞くと、彼はこう答えた。「子どもたちは、世界の広さを知らないから、身近な職業からしか夢を選択できない。そして、知っていたとしても夢は叶わない。何故なら貧困だから」

そして、孤児院の子どもたちの 3 割が犯罪者になってしまうという事実を聞いた。

これが貧困だ。子どもたちと 1 カ月過ごしてきた私には、あまりにもショックだった。

貧困とは、「子どもたちの夢の選択肢の幅が少ない」ということなのだと私は知った。

私はここではっとした。

日本はどうだろうか。確かに日本は豊かな国だ。将来の選択肢も無限にあるように思える。

しかし、実際はどうだろう。夢を語った時、「お前には無理だ」と散々言われてきた。いい大学に入り、いい会社に就職して、結婚して老後へ。それが「幸せ」なのだと、言い聞かされて育ってきた。

私は、孤児院に行き、子どもたちと出会い、今までにない幸せを感じた。ご飯を家族全員で囲み、食べられる幸せ。少ないものでも、分け合える兄弟がいる幸せ。人と向き合い、生きていく幸せ。それは、日本で言い聞かされてきた「幸せ」と言えるだろうか。

日本も、インドネシアも貧困だ。

両方とも、夢の選択肢が狭い。インドネシアは、お金のため。日本は、「幸せ」の概念の狭さ故。

私は今、1 冊の本を作っている。200 種類の職業と、世界中の国を紹介した本だ。

このインドネシア語で書かれた本を、私は今年の 8 月、孤児院に届けようと思っている。

そこで夢教室を開き、子どもたちに世界の広さと、選択肢の広さを伝えてあげたいのだ。

私が、より良い未来を創るために必要だと思っている教育は、「夢教育」だ。

子どもが夢を持ち、進むことができる未来が創れたら。これは、先進国にも、途上国にも必要な教育だと思う。

現に今、私は、「子どもたちの選択肢の幅を広げる」という夢ができた。

人生で初めて、希望に満ち溢れた毎日を送っているのだから。

無数の雲をつむぐ教育を

(原文は英語)

キャリー・スー (13 歳)

米国ニューヨーク州

より良い未来をきずく土台は若者、次の世代、そして教育のなかにあります。世界には、ふくざつな問題がたくさんあります。自分の考えを世に広めよう、人々に聞かせようとする考え方（イデオロギー）もその一つです。自分の考えを押しつけることで頭のなかがいっぱいになり、結果的に他の人々に憎しみをぶつけてしまいます。こういう問題は、すべて単純な状況から生まれています。満足できない、安らかな気持ちになれないという人の心がもたらしているのです。

子どもは、誰もが安らかな気持ちで過ごすべきです。あなたの夢なんて無理だ、かなうはずがないと言う人はおおぜいいます。そのせいで、多くの人が心の安らぎを得られず、自分に満足できない状態にいます。どんな夢でも抱くことができる、あなたの夢など無理だと言われる子どもが一人もいない、誰もが自分の未来を自分でつかみ取れる、そういう時代が訪れたら、世界はどんなふうになるでしょう？ 貧しいからとか、お金持ちだからということとは関係ありません。どんな子どももお金のようなつまらないことのせいで下に見られることがあってはならないのです。教育の未来において、夢とは空に浮かぶ雲のようなものです。現実と夢は、実はそんなにかけ離れたものではないということです。夢とは、現実にとっとキスをするかすみのようなものです。ちょうど、お母さんが子どもにするようなキスです。未来の夢はすべてかなえられるはずで、未来は、夢の実現に通じる道や扉をいつでも無数に備えているのです。

生徒一人一人が情熱を傾ける対象を見つけられるような、理想的な教育システムの形は本当にいろいろあります。大学に入ってからのごく限られた時間で卒業後の進路を決めるよりも、子どものうちから始めませんか？ たしかに ABC を習い、外で遊び、アイスキャンデーをかじるのが子どものやることです。でも、将来について考える時期でもあると思います。子どもである私たちは無邪気で、この先どうなるかなど心配したりしませんが、そういう無邪気を失わずにいられたらどうでしょう？ 私たちは大きくなるにつれ、現実や悲しさについて知り、それが心に重くのしかかって、夢の雲が一つ、また一つと消えていき、ついには空に雲が一つもなくなってしまいます。

いつまでも空想の世界にいられないというのは、確かにその通りですが、夢を忘れてはいけないと思います。パウロ・コエリョも言っています。「夢の実現を不可能にするものは一つしかない。失敗を恐れる気持ちだ」と。子どもは不安や失敗を経験し、夢を心の片すみに押しこんでしまいます。夢はやがて不安、失敗、現実の厳しさに押しつぶされていきます。そうした心の片すみを掘りおこし、

考え方や夢を広げていくのが教育ではないでしょうか。それによって、やがて人類はあらゆる地域の問題や地球規模の問題を解決できるようになるでしょう。現実を知ること、子どもたちはより良い世界にしようと考えます。平和な世界をきずく、世界中の人たちが平和に暮らせるようにするという究極の目標に向かっていくのです。

私が考える理想的な教育制度は、まだ無邪気さと好奇心でいっぱいの子どものうちに自己発見をうながします。子どもは自分が学びたいと感じたときに、興味を持った教科を選ぶようになります。教育は肌の色、人種、民族、性別、お金持ちかどうかに関係なく、どの子どもも受けられる基本的人権として与えられます。体験活動が含まれ、期限に追われずじっくりと学び、大人の専門家や他の学生との交流もできます。学生は自分の創造性、思考、アイデアを十分に理解し、育むことで、独自の知性を高めていけるでしょう。私は毎日教科書を読まされていますが、こうした今の教育制度とはちがひ、あらゆる専門職についていろいろなレベルで学べ、その分野の資格のある人が教え、学生と交流するような教育制度です。

今の私は安らかな気持ちではありません。自分の将来が見えていないですし、どんな将来を望んでいるのかもわからずにいます。あなたの夢は現実的ではないと人から言われたこともあります。理想を押しつけられたこともあります。今の教育制度は、夢中になれることを見つけるよう勧めてはくれません。私はたった一人で不安を抱えながら、探求の旅をしなければならないのです。子どもは将来に不安を感じてはいけないと思います。将来のことを思うと、期待と幸せに胸がふくらむようであればいいですね。未来の子どもたちが教育のおかげでより幸せになれるよう、そして、どの子どももらしく、平和の花からしたたり落ちる露を味わってほしいと私は願っています。

教育と人格

(原文)

加藤 穂乃佳 (14 歳)

静岡県

静岡大学教育学部附属静岡中学校

テロの報道があると、私はその映像に怯え、奪われた命の無念さに同情した。でも何もしないまま時間が過ぎ、平穏な日常生活に戻っていた。

2 月、中東和平プログラムに参加した。イスラエルとパレスチナの戦争遺族訪問団が静岡にやって来た。20 歳前後の若者の体験談を聞いた。目の前で家族を殺された人、わずか 9 歳の時に姉妹が捕らえられ殺されてしまった人。日本に住む私には、想像を超える衝撃的な体験談だった。イスラエルとパレスチナは敵国関係である。しかし両国の勇気ある少数の若者がペアになり、ホームステイをした。仲良さそうにふるまっていたも過去の出来事が脳裏に甦り、憎しみや深い悲しみで煮えたぎるような感情を抑えきれない瞬間もあっただろう。しかし彼等は長く続いた混乱の果てに得た本当の強さと理性があった。「乗り越えて歩み寄る勇気」。私達がこれから学ぶべき答えのひとつがそこにあった。

戦争遺族のひとりが言った。

「将来の夢などない。ただただ何にも怯えずに平穏な暮らしをしたい」

何故こんなにも多くの人々が死ななければならないのだろうか。戦争だけではない。ワクチン接種も治療もできず失われる命、貧困にあえぎ空腹に苦しむ子供達。自爆テロの実行犯の多くは私とあまり年齢差のない過激化した若者が多い。

最近の私は以前よりもこの問題について考えるようになった。平和を脅かす最大の原因は「苦しむ人に対する人々の無関心さ」だ。向き合いたくない現実から目を背け、他人事のように日常に戻ってしまう私達。この無関心さが富める人と貧しい人との落差をつくり、テロや戦争へと走ってしまうのではないか。

私は環境問題を解決して行くことがより良い地球の未来と信じ、幼いころから様々な活動に参加してきた。でもそれだけでは足りない。世界中の人が、「生まれてきて良かった」と、ごく普通に思える世界を築くことも同じくらい大切なのだ。

私の学校の校訓は「真善美」と「自主独立」だ。より良いものを自分達で追求し、共に創り上げて行く目的がある。生徒主体で行われる授業は意見が割れ、収拾がつかなくなることもある。そんな時もとことん意見を出し合い、対立を解決する糸口を見つけようと粘る。考えが深まり、相手の伝えたいことを想像し、理解する努力を重ねる為、充実した気持ちになる。だけど私達を教育してくれるの

は経験を積み、たくさんの知識を持った大人だ。どう教育されるかによって人格もつくられていくと思う。正しいことだと信念を持って自爆テロを起こした若者達を育てたのも教育だと思う。数学の答えのように全世界共通の答えもある。しかし私達は今、生まれた国で作成された教育方針に何の疑問も持たず学んでいる。

戦争やテロの起こらない世界。幼い人、年老いた人、弱っている人、自分とは違う考えの人にも手を差し伸べられる寛容な世界。利益の為の自然破壊を止められる勇気ある世界。

私は世界で起きている問題の多くを知らない。今の世界を動かしている全世界の大人達に対立を乗り越える勇気を持ってしっかりと向き合い、会話してほしい。今の大人から未来の為に何が必要か教えてほしい。そして私達が大人になったら学んだことを実行に移し、考え、知識を次へ繋いで行く。

築 46 億年の地球という青く澄んだ美しい家に住む私達は家族だ。家とは家族の学び舎でもある。地球の未来の為、平和な人類の為、この学び舎で力を合わせ、想像力を働かせ学び進んで行きたい。

理想の教育制度

(原文は英語)

イース・セヴェネイ (16 歳)

トルコ・イスタンブール市

チェブレ・カレッジ

果てしない、凍てつくような沼を思い浮かべてみてください。あなたは岸を見極めようと、必死で顔を上げていますが、どんなにもがいても沼にますます飲みこまれていきます。

私たちの世界はどん欲で残酷な沼です。人の苦しみ、貧しさ、飢え、人種差別、無知を糧に拡大していく沼です。私たちのほとんどにとって、ユートピアとは本来の無邪気さの最後の源を失わないよう、幼い子に話して聞かせるおとぎ話にすぎません。人を肌の色、言語、宗教、お金の有無で分類する世界に住んでいながら、人類はいつか変わると、私たちは今もなお希望を抱いています。

なぜ、このような状態なのか？ 人類が心に秘めた残忍さからも無知からも清められる可能性が本当にあるのか？ そんな質問は浅はかで問う価値もないと思います。なぜだかわかりますか？ 答えはもうわかっているからです。いちばん大事なこと、それを私たちは教育と呼んでいます。教育とは、燃えさかる火を消す水のようなもの、私たちの頭と心に光を注ぐもの、そして皆が愛し合うようにさせるもののはずです。にも関わらず、あたりを見回せば苦痛や苦悩しか目に入りません。

未来のない世界には住みたくない、ティーンエイジャーの私は思います。複雑な教育制度を望んでいるわけではありません。まず、誰もができるわけではないことをやらせ、私たちを分類するのはやめてください。私たちを理解し、もっと深く見ようとするところから始めてください。私たちは皆、どこか深い所にすばらしい才能を秘めているからです。アインシュタインも言っています。「誰もが天才だ。でも、魚を木に登れるかどうかで判断したら、魚は一生、自分はばかだと信じて生きるだろう」

次に、型通りの公式、考え、システムを教え込むのをやめてください。それらの奥にあるもの、問題の根源を教えてください。次の試験までに暗記することを目の前に並べられてもそんなものは記憶に残りません。私が本当に必要としているのは質問する能力です。またアインシュタインの言葉を引用しますが、彼は「教育とは事実を教えることではない、物事を考えられるよう頭を訓練することだ」と言っています。ですから、この庭にはなぜ巨大な岩があるのかという私の質問をさえぎらないでください。最も偉大な考えは、最も単純な質問や思いつきから生まれてくるのです。私が知りたいことは、教科書には書いていないかもしれません。でも、それを口実に、教えることをやめないでください。

私は一人の人間として、世界の役に立ちたいのです。歌にあるような、「アナザー・ブリック・イン・

ザ・ウォール（壁のレンガのひとつ）」にはなりたくありません。真っさらなキャンバスに自分自身と世界を描かせてください。色を決めるのは私です。でも、描き方を教えるのは先生です。

大人にお願いがあります。寛容さについて教えてください。さまざまな色を組み合わせれば虹のような調和をつくり出し、調和することによってのみ生き生きと輝けると話してください。外国語を学ぶ能力がないと私に言う前に、赤ちゃんでもその言葉を話している事実気づいてください。不可能なことなど何もありません。宗教について教えてください。宗教は私たちを分裂させるものではなく、結びつけるものだ。そして、私が何を信じるかは、私に選ばせてください。

物理学を学ぶより先に、私たちは人間であることを学ぶ必要があります。これが一番重要です。子どものうちにこの点について学び、深く心に刻んでいけば、原子を発見しても殺人の道具にはしないでしょう。空高く舞う鳥から地面の中にいるミミズまで、すべての生き物には何らかの意味があり、尊重されなければならないことを教えてください。傷つける行為は最も恐ろしい悪魔のゲームであり、奪うよりも与える人生のほうが大切だと教えてください。与えることについて教えてください。

そして最後に、私たちに教育を施す前に、自分自身を教育してください。心の中にひそむ猛々しい怪物を押さえつけてください。破壊という病気をいやしてください。文明の仮面に隠れ、人をおどす武器や技術を大量生産するのはやめてください。学生は彫刻作品であり、先生は作品を形づくる彫刻家だということを忘れないでください。私たちは、あなた方の姿を見て学んでいるのです。

世界の問題に気づくための教育

(原文は英語)

ヘイリー・パイエット (16 歳)

セーシエル・マヘ島

インデペンデント・スクール

教育は社会の基礎となるものです。若い世代はこの世界を受けつぎ、自分たちの学んだ知識や物事の方針、意見に基づいて世界と接していきます。つまり、今の子どもたちに何を教えるかは、この世界の運命、そして未来を決めるものなのです。

今、世界では争いが絶えません。私たち若者は、人種差別、男女不平等、同性愛者差別、反ユダヤ主義などの問題について、偏見を持たないよう最も進んだ教育を受けている世代だと考えられています。しかし、世界ではいまだに女性の地位は男性と比べて低いままです。国連の報告によると、麻薬は毎年 3200 億ドルもの規模にのぼる産業であり、年間 20 万人もの人の死をもたらす原因となるとされています。さらに、地球温暖化と環境汚染も深刻な問題です。生態系が破壊され、大切な種が絶滅していきます。人間の活動が、自然環境の劣化をどんどん進めているということです。一方で、テクノロジーの発展のおかげで労働は非常に楽になりましたが、結果として世界中で失業を引き起こしています。失業者や新たな労働人口に仕事を確保するには、2020 年までに 5 億件もの新規雇用を生み出す必要があるともいわれています。食の安全と確保も、明らかな問題です。サハラ以南のアフリカの国々では、年間で 310 万人の子どもたちが栄養失調で命を落としています。しかし一方で、世界中で生産される食料のおよそ 3 分の 1 が無駄に捨てられています。

これらの問題は、残念ながら現実のものです。すぐに状況を改善するのは、難しいかもしれません。しかし、人類はもっと意味のある存在になれるはずで。平和に共存すること、柔軟な考えを持ち合意形成すること、寛容になり、相手を尊重する心を持つこと、他者を思いやり、意識を広げること。こうしたことを学び、そして教えることによって、様々な問題に立ち向かうことが可能になります。

私自身も自分に問いかけてみました。「どのようにして教育と学習が、このような問題に対処し、持続可能な世界、そしてすべての人にとってのより良い生活を実現する助けになり得るのか」という問いです。自分の受けてきた教育を改めて振り返ってみると、こうした問題に取り組み、備えるためには、もっと違うことができたのではないかと疑問が生じました。そして気づいたのです。これまで受けてきた教育では、自分が一人の人間としてこの世界で果たすべき役割については、全く考えることができていませんでした。教育とは、自分の人生よりもっと大きな目的のために役立てるべきものです。これまで重視してきたことは、自分自身の学業向上、自分や家族のためによりキャリアや人生を

築くということでした。人は自分自身のためだけに人生を歩むわけではないと、これまでは気がついていませんでした。

私たちは、持続可能なより良い世界を実現するため、新しい世代を創っていかなくてはならないのです。周囲で起こることに意識を向け、自ら関わっていけるような人たちです。

これを実践するには、未来世代の教育に、思いやりと自覚のある態度を芽生えさせるための新しい必須科目を導入するのがよいと思います。優先度も重要度も、他の科目と同じくらい与えられ、大学入試の合格基準に影響するものでなくてははいけません。大学の合格基準として、学業、課外活動に加えて、人間性（個人としてだけでなく、人類の一員としての資質）が求められるようにすべきです。この科目は、取り組む姿勢、興味、結果に応じて、総合的に評価され、単位が認められるものです。

この科目は、環境問題、男女格差、薬物・アルコール依存、貧困の問題などいくつかの項目に分かれています。生徒たちは、すでに他の学習を通じてこれらの問題に関する知識を得ています。しかし、この科目はそうした問題を現実のものとして理解する上で役に立ちます。

この科目では、実地体験ができるようなプログラムを行います。例えば、環境問題について学ぶ生徒は、環境破壊が進む地域で校外学習を行います。現実を目の当たりにすることで、保護活動の重要性を理解します。こうして学んだことはその後、現存する重要生態系地域の維持活動や、環境保護を目的とする募金活動など、具体的に活かせるものにしなければなりません。他に、地域のリハビリ施設を見学するのもいいでしょう。薬物乱用の現実をその目で確かめることは、自分自身が同じ過ちを犯さないという予防の意味でも役立ちます。あるいは、さらにこの問題に取り組み、支援を行うきっかけとなるかもしれません。生徒たちは、体験を通して学んだことを発表します。そうすることで学習内容を広く共有することができるようになります。

このような科目はとても重要な意味を持つものとなります。生徒たちは人生の早いタイミングで、自分を取り巻く世界を意識するようになり、個人を超えたより大きなものに関心をもつことができます。また、大人になれば、すでに述べたような問題に多く直面することになりますが、その前に備えをしておくことにもつながります。この科目の導入により、まったく新しい、有能で、人間としての思いやりを持った、真に進歩的な世代を創造することができるはずです。

まほうの質問

(原文は英語)

アンゲル・マリア (9 歳)

ルーマニア・ブカレスト市

私たちは子どもでとても小さかったので、まわりを見回してよく同じ質問をしました。「なぜ？」と。私たちがとにかく質問さえすれば、ふしぎなことにまほうがかかって、よくわかる正しい答えが返ってきました。最初は両親から、その後は先生から。そうやって私たちの問題や疑問は解決されてきました。

私の国ルーマニアでは、子どもはほとんどの時間を学校で過ごし、教養のある人間になるために知らなければならないことを学びます。教養のある人たちは親切で思いやりがあり、他の人のために働きます。

残念なことに、私はテレビのニュースで、十分な食べ物がなく、戦地やひどく汚れた場所でくらしている子どもたちを見たことがあります。母親は子どもを腕にしっかりと抱いて一緒に泣いていて、父親は銃を抱えていました。その子どもたちのためになる物は何もないように見えました。彼らは学校にも行くことができないと思います。

そこで私はまた同じ質問をしてみました。でも、今回はまほうのような答えは返ってきませんでした。悲しみでいっぱい答えばかりだったのです。「地理的に不利な場所だから」「資源のために戦っているから」「宗教の対立があるから」と、どれも私には理解できない答えでした。さらにもっと驚いたのは、すべての答えに、「どの問題にも解決の方法がない」という言葉が入っていたことです。なぜだかわかりませんでしたが、一つだけはっきりわかったのは、まほうの質問が突然、その力をなくしてしまったということです。

何かをしなければ！ 私たち、こんなことを放っておいてはいけないわ！

たくさん考えて、私は子どもたちを助ける方法を見つけました。友達みんなに協力してもらってチームを作り、地球に住むすべての生きものにとってよりよい場所へと、地球を変える計画を始めたのです。私たち一人一人が仲間や友だちをたくさん集めて、みんな一緒になって環境を守り、公害を減らし、天然資源をリサイクルし、むだづかいをしないようにします。そうすれば、私たちのような環境にいる人間が、不利な場所の人たちのために資源をとっておくことができます。

でも、戦争をやめさせるためには、もっと助けが必要でした。両親と話して、人間と思いやりのあるりっぱな行動は強くつながっていて、このつながりが愛や友情、そしておたがいを理解することだと知りました。悲しいことに、この考えを世界中の人と分かち合うのはむずかしいです。ここでまた、

まほうの質問「なぜ？」をしてみると、解決の方法が返ってきました。「自分と自分のまわりの人たちをよくすること。そのためには強い意志を持って一生けん命にやらなければならないけど、やがては世界中に広がって、他のことも変えられるようになる」。

今、私はやらなければならないことがわかっています！そして、それを達成するには学校が重要な役割を果たすと思います。

私たちは新しい情報を見つけたり、新しい技術を身につけたり、新しいことを理解するのに、すでに本やコンピューターを使っています。

社会見学をすれば、いろいろな物に対する知識や理解が深まり、勉強のテーマが身近に感じられると思います。また、グループやチームごとにまとまって勉強をすれば、考えを伝え合うことが上手くなって、他の人の意見をおたがい理解したり受け入れたりできるようになると思います。

授業には宗教も入れるべきです。世界の主な宗教をすべて解説し、その違いや似ている点を教えるべきです。そうすれば私たちはもっとおたがいを理解できるようになるでしょう。

健康に対する教育もとても大切です。子どもは健康的な食事をする方法や、応急手当の方法、また人や動物を傷つけてはいけない、助けなければならないということを知っておかなくてはなりません。

心も体も一緒に成長させるために、体育の授業には合気道を入れるといいと思います。合気道は相手を傷つけない日本の護身術で、心と体のバランスを整えてくれます。

また、芸術も子どもがおたがいを理解するのに役立ち、世界の新しい見方を教えてくれると思います。

この計画は私たちみんなにとって本当に大きな挑戦ですが、私たちの後続く人が世界中でどんどん増えていくと思います。

大きくなってどんなことも最高にうまくできるようになっても、自分自身に「なぜ？」と質問し続けることはとても大切だと思います。答えを探し続けることだけでも、もっとよい人間になれるからです。

ちがいを乗り越えて協力すること

(原文)

君和田 大輝 (10 歳)

東京都

世田谷区立八幡小学校

みなさんは協力なんてできないと思ったことはありますか。ぼくはあります。ぼくはアメリカに住んでいたとき、科学コンテストに参加しました。そのとき、様々な国の出身の、色々な人種の、初めて会う人達と同じグループになりました。コンテストは火山の模造きを作るというものでしたが、みんなの意見が合わず、けんかになってしまい、作りかけの火山はとちゅうで爆発してしまいました。ぼくは、とてもくやしく、残念な思いをしました。

その2年後、もう一度挑戦するチャンスがきました。こんどは「ツリーハウス」すなわち木の上の秘密基地を作るコンテストでした。前回と同じく、様々な人種・国せきの人達のグループでした。最初は、どうやって作るか意見が合わず、みんないらいました。しかし、一人が「ツリーハウスを完成するというゴールに向かって、みんなで協力してとにかくがんばろう」と言い出しました。ぼくは、その意見にさん成して「同じゴールを目ざそう」と、みんなによびかけました。必死で力を合わせ、数時間後にツリーハウスは完成し、コンテストで1位になりました。それをきっかけに、ぼくはグループのメンバーと仲良くなりました。このけいけんから、共通のゴールに向かって、ちがいを乗り越えて協力することの大切さを、ぼくは学びました。ぼくにとって、とても大切な教育の機会でした。

このことは、もっとスケールの大きいこととも言えると思います。日本では2011年3月11日に巨大な地震がおこり、津波は家、家畜、橋など、そしてたくさんの人達を流してしまいました。ぼくはその様子をアメリカでテレビで見て、とてもおどろき、悲しい思いをしました。時はたち、2016年に、ぼくはひ害のあった場所をたずねました。まだきずあとは残っていましたが、大きく回復していました。東北の人達は、絶望せず、多くの人達と協力して、復興にとりくんだのだと思います。苦しい中、多くの意見のちがいもあったのだと思います。それでも、町をとりもどし、ふつうの生活にもどるといふ大きな共通のゴールのために、協力して成しとげたのだと思います。ぼくはそのパワーを感じ、心を打たれました。

アメリカでのぼくのコンテストのけいけん、東北の震災の後の復興、両方に言えるのは、共通のゴールに向かって、ちがいを乗り越えて協力することの大切さです。多くの人と協力すると、一人ではできない大きなことがなしとげられます。それだけではなく、協力した人達のきずなを深めることも

できると思います。

今、世界では、戦争、地球温暖化、テロなど多くの深刻な問題があります。これらの問題も、ちがいをみとめ合うことができないことが原因なのではないかと、ぼくは思います。大きな共通のゴールに向かって、ちがいを乗り越えて協力していくことが必要なのではないのでしょうか。

ちがいを乗り越えて協力することの大切さ。このことを教育を通じてみんなに伝えていくべきだと思います。大人の考えを変えることは、すぐにはむずかしいかもしれません。しかし、子供への教育を通じ、大切さを伝えていけば、10年後、20年後に、より良い世界が作れるのではないかと思います。より良い未来をつくるために、ぼくはこれからも見聞を広め、様々なけいけんを積み、学んでいきたいと思っています。

より良い未来をつくるための教育

(原文は英語)

キンリー・カムスン・レンダップ (13 歳)

ブータン・パロ市

ドラックゲル中学校

教育について考える時、まず頭に浮かぶのは、毎日朝から午後までずっと学校で習っている科目の範囲です。後にはテストと試験もあります。ぼくたちはこの科目を全部習って、試験でいい点を取りさえすれば、立派な将来が待っていると信じています。多くの人が、良い教育がすばらしい未来へのカギだと言います。でも、それはどんな教育なのでしょう？ 机の前に座り、コンピューターとにらめっこするような教育？ それとも、文字通り手を汚す仕事につかないようにする教育？ 未来がビルだとしたら、教育は基礎工事です。人が将来豊かな暮らしをするための準備だけではなく、生きている物すべてがお互いに調和しながら生きていける、理想的な世界を作るためのものでなくてはなりません。

学校での教育は、ほとんどが学業重視で、健康的とは言えない研究や議論から始まっていました。そのため、教育専門家たちはこれまでに学校での課外活動を取り入れてきました。でも、やっぱり学業に重点がおかれていて、ぼくたちは高い知識を得ることがすばらしい未来への唯一の道だと信じています。子どもたちの精神的、肉体的、感情的な成長のために、健康的な教育も同じように重視すべきです。そうすれば、ぼくたちが将来何をしたいかを見つける時に、たくさんの選択肢の中から考えることもできます。一番大切なことは、ぼくたちがやりたいことを見つけられるように、そしてその目標達成に向かってがんばれるように、助けてくれることだと思います。

健康的な教育は子どもを成長させる一番の方法ですが、ぼくたちがただ教えられるだけでなく、自分から学べるようにしてくれることも大切です。自分から学びたいと思った時、失敗や経験から一番よく学べます。先生方は本に書かれていることを教えるだけでなく、将来ぼくたちにどんなことが待っていても備えておくという考え方、また、一人一人が一番得意なことをできるように、あらゆるタイプの人と仕事に敬意を持つという考え方を身につけることも教えた方がいいと思います。良い教育は子どもを肉体的にも感情的にも社会的にも成長させるに違いありません。そのため、大人になった時、読み書きの方法を知っているだけでなく、人との接し方も分かるようになるはずです。社会的な人間関係の能力がアップすれば、実際の世界に出た時、現実や別の挑戦にきちんと向き合う覚悟が自然とできるようになります。教育は、障がいや性別、地位や階級に関係なく、すべての子どもに与えなければならないという点でも、すべてを含めたものでなくてはなりません。それぞれ能力が違って

いても、子どもたちには、お互いを受け入れ、尊重し、一緒に成長することを教えるべきです。それがすべての子どもの権利だからです。そうすれば、学業において良い成果を出せるだけでなく、社会が調和した未来に向けて対応していける社会性を育てることにもなります。

そうは言っても、教育は自分にとって良い未来を作るだけでなく、同時にこの世界全体を平和で健康的な場所にするためのものでなければなりません。現在、ニュースのチャンネルで見られるように、世界中には多くの問題があります。戦争、自然災害、不平等、貧困、人種差別などです。人々が、お互いや住んでいる環境を素直に受け入れ、敬意を払い、心づかいや思いやりを持つことを学べば、世界ははるかに住みやすくなるでしょう。子どもたちは、人類や世界、持続可能な未来のための環境に対して責任を持てる大人になるために、教育されるべきです。そうすればきっと、一人ひとりの人間が世界中で変化を起こせると、ぼくたちに教えてくれるはずです。

現在、教育はすべて、仕事の準備をするためのものとなっていますが、そろそろ教育に対する考えを変える時です。仕事は人生の中でなくてはならないものですが、平和的な共存はもっと重要で、教育はそれを達成するのを助けるものです。今を変えるためにはもう遅いかもかもしれませんが、未来を変えるためには遅くありません。

幼い頃の自分への手紙

(原文は英語)

アリーナ・ラスク (14 歳)

ルーマニア・コンスタンツァ市

国立コンスタンツァ・ミルチャー世中学校

小さな私へ

この世界はつらい所です。あなたが思っていたようなものではありません。理解するのは難しいでしょうけれど。

これは、誰でもそうなのです。あなたもティーンエイジャーになれば、思っていたほどすごい物は何もないと分かってくるはずです。人は常に自分の力を見せびらかそうとしているし、何と闘っていたのか忘れてしまうくらい長い間、闘っています。それがその人の生き方になっているのです。

でも、リトル・アリーナ、あなたはラッキーな人間だということを知ってください。あなたにはどんな質問にも答えてくれる人がいます。あなたに与えられるものを無駄使いするのは残念なことです。あなたにとってはどれも普通でも、夢のような物だと思っている人たちが本当に大勢いるのだから。例えば、家や家族、教育を受けるチャンス。

リトル・アリーナ、誰もがあなたと同じようにラッキーなら、この世界はどうなるだろうと考えたことがありますか？ たぶん、もう戦争は起きないでしょうね。たぶん、人類として十分に進化して、変化を起こすためには一丸となって立ち上がる必要があると分かっていたでしょうね。教育はそのためにあるのです。つまり、人類が平和に暮らし、交流し、成長するのに必要なことを理解するために。

でも、決して遅すぎることはありません！ どこかで誰かがそのうち変化を起こしてくれると言い訳をしながら日々を過ごしてはダメ。あなたがその「誰か」になることができます。すべては心の持ちようで始まるのだから。

まず、しっかり勉強すること。想像力を使って、できるだけたくさん本を読んで、どんどん質問をして、決して恐れずに、学校で質問されるよりも多くの質問をすること。失敗を怖がらずに常に自分に挑戦すること。この通りにやっていたらきっと、進化しながら成長して、最後には目標に手が届くようになるはずです。

学校のすべきことは、あなたの精神をきたえて、自分で考えさせ、物事を理解するのを助けること。あなたは質問に対する答えを与えてもらうのではなく、自分で答えを見つけるのです。その日の終わりには、それは知識ではなく知恵になっているから。そして何より、それはあなたと周りの人たちを

ありのままに受け入れることになるのです。言い換えればチームワークやコミュニケーション、お互いを理解するということなのです。

もちろん、教育の課程は一生続きます。でもきっと、あなたが予想するよりも早く、それをやっと世界とシェアできたと感じられる日が来るでしょう。コミュニケーションやシェアをしてください。自分が思っていることや感じていることを、決して恐れることなく、世界に向かって発言してください。もう一度言うけど、これはすごいことです。自分の気持ちを話したり、自分の感情を世界とシェアしたりできること、それを平和的に、誰も傷つけずにやれるということは。それは、あなたが教養のある人間だということを示します。そしてすべての人に教えるべきことです。だって、ほんの小さな、普通のことのように見えるから。でも、もしそうなら、今の私たちの生活は違うものになっているたでしょうね。

私たちはみんな、本当に教育を受けたい時に受けられます。あなたのようにラッキーな人は、学校に行く機会を与えられています。でも、人間としての私たちを作り上げるのは学校だけではありません。よく聞いて。すべては育った環境から生まれます。小さい時に周りにいた人たち、その人たちがやっていたこと、言っていたこと、それらすべてが、気づかないうちにあなたの心の中につめ込まれます。人は自分の周りで見られるものをお手本にします。そこが、この世界の残酷なところですよ。

なかなか信じられないでしょうけど、あなたは、そう、あなただからこそ！ 変えられます。あなたからすべてを始められます。あなたが誰かの力になろうと動き出せば、人はあなたをお手本とするでしょう。その行動と優しさをあちこちに広めていくでしょう。これは成長の過程で、徐々に世界全体が良くなっていくでしょう。そこに教育の意味があるのです。

そして最後に、小さな私へ。常に忘れないでほしいのは、人生を思い通りに進めていく方法を、自分で選ばなければいけないということ。「あなたが」選ぶのです。そしてあなたに与えられているものをすべてうまく活用して、成長してください。勉強してください！ あなたとあなたの周りの人たちのためにより良い世界を作ってください。

だってそうすれば、この広い世界はリトル・アリーナ、あなたのものだから！ まだあなたのものになってないならね。

愛を込めて
未来のあなたより

自分に必要だと思うもの

(原文)

植野 千夏 (14 歳)

長野県

松本秀峰中等教育学校

教育を受けるのは誰でしょうか。

紛れもなく自分自身だと思います。教育はこの先もずっと続き、沢山の人が受けるのですが、それぞれから見れば、それを受けて物を考えるのは、自分自身に他なりません。

では、教育を施すのは誰でしょうか。

真っ先に思い浮かぶのは先生や親ですが、それも学校や家にいる間のみ。そもそも大人になっても年をとっても、どこでもいつでも教育が施されることはあります。それなら教育を施す人は無数にいるのではと思えますが、「どんな教育を施すのかを選ぶのは誰か」と問い変えれば、この答えも、自分自身とは考えられないでしょうか。人の話をどこまで聞いて、どこまで聞き流すかは、受け取り手の意志にゆだねられます。

教育を受けるのは自分で、自分にどんな教育を施すか決めるのも自分なのです。

教育について考える時、なんとなくそこが忘れられてしまいやすいと思います。「こうするのが良いのではないか」と自分が考えた教育を、受けるのは遠いどこかの誰かのように考えてはいませんか。

例えば、「何でも実践して身につけるのがいい」とよく言われます。大事なことだと思いますし、それは誰もが理解できると思いますが、それを誰にも強制されずに実行に移す人は少ないのではないのでしょうか。

私は前に、山の方に住んでいる友達の家に行こうと自転車でのぼりに行ったことがあります。山から一定の距離の所から急に傾斜が上がっていて、「これはもしかして扇状地とか言うものか」と思えば、教科書の言う通りに上に行くほど周りが田んぼから果樹園に移っていて、「これがそうなのか」と納得した覚えがあります。それは強く記憶に残りました。

私の話は全くの偶然です。が、「何でも実践」と簡単に言っても、それはかなり労力を要するのだろうと身をもって体感しました。

実行して初めて分かることもあるのです。

また、誰かに何かを教わる時、自分も他の聞いている人も、同じ物を受け取っていると思っていませんか。

同じ話を聞いていても、熱心そうだったり、上の空だったり、様々な人がいるでしょう。皆、興味

が違うのですから、同じ話でも同じ理解は生まれません。

「個性にあった教育を」とよく耳にします。しかし、一人一人興味が違う時点で、受け取る教育はすでに個性を反映して異なっているはずです。

だから大切なのは、教える側が適した教育を「与える」のではなく、自由に自分の興味を追える環境を作ること。そして何より、受け取る側が、自分は教育を「与えられる」という考えをせずに、やりたいことや必要な物を自ら求めていくことだと思います。

人がどんな教育を受けるかは、その人自身が選択し、決定しています。その決定力は、とても強いのです。

今回のテーマにある「よりよい未来」を作るのは誰でしょうか。

他でもない自分自身です。「よりよい未来」は簡単に想像できますが、それを叶えるのは遠い未来の誰かのように思っていないですか。違います。「未来」を作るのですから今生きている人なら誰にでもその権利があります。

自分は受け取り手ではありません。「未来」を作るのは大変だと無意識にあきらめて、誰かを待ってはいませんか。確かに大変でしょうが、それでも、やってみなければ変わらないもの、手に入らないものがそこにあるはずです。

私が考えるよりよい未来を作るための教育は、自分が自分に持っている決定力と、自分が動くことの重要性を伝えることです。

しかし、何よりも一番大事なものは、そうであろう、そうしようという自分の意志だと思います。全ての土台となるでしょう。

それらはきっと至難の業でしょうが、私はそうありたいと思うのです。

多文化共生

(原文)

伊藤 真彩 (15 歳)

愛知県

名城大学附属高等学校

私の学校では、「多文化共生」という授業があります。イスに座って先生の話聞きながらノートを書くのではなくて、自分の体 1 つで、世界で起こっている問題など様々なテーマについて、チームを作って話し合ったり、ゲームをしたりしながら考える授業です。

私はこの授業がとても好きです。なぜなら、この授業は、普段難しくて考えもしないようなことを、楽しみながら理解し、どうしたら解決できるか、現状よりどうしたら良くすることができるか、深く考えることができるからです。先日、この授業で、ブレインストーミングという授業をしました。グループを作って、1 つの問題に大きな紙に 1 人が 10 枚ほど頭に浮かんだ言葉をふせんに書いて貼っていくというもので、その時の題は、「震災が起きたときに自分がすること」でした。私は、水の確保や安全な場所に避難するなど災害が起こった直後の視点でたくさんの意見を出していました。しかし、同じグループの友達は、「小さい子どもと遊んであげる。」など震災が起こってからの避難生活での観点でたくさん意見が出されていて、自分 1 人だけの考えだと思いつかないことも、グループを作ってたくさんの考えを集めると、こんなに色々な視点から 1 つの題について考えられることに、やりがいがあって楽しい授業だと感じました。

私は普段とても内気であまり自分の考えや意見を積極的に伝えることができません。ですが、この授業は、人の考えを否定しないというルールがあって、とても自分の考えを伝えやすく、たくさん思っていること、感じたことを伝えることができます。この授業を通して、自分の考えをきちんと相手に伝えることや、相手の考えを聞くことの大切さを学びました。

私は、違う高校に通っている中学校の時から友達に、「多文化共生」の授業について話しました。すると、「そんな授業私の学校にはないよ。」「楽しそう、うらやましい。」と言っていました。私は、他の学校でもこの授業はやっていると思っていたので、ビックリしたと同時に少し残念だと感じました。最近、若者の政治離れが問題となり、ニュースに取り上げられているのを見ました。国政選挙や地方選挙で投票率が低迷し、このままでは民主主義国家としての存亡が問われるほどの深刻な事態になっている。私はこのような問題も、「多文化共生」の授業で、解決できるのではと考えています。選挙に参加しなければいけない理由やどうしたら政治に参加したり興味を持つことができるかを題として、みんなで話し合うことで、今の政治の状態を理解し、将来の日本について考えたり、選挙に参加

する人が増えるのではないのでしょうか。

しかし、先ほどの友達の例からして、あまり「多文化共生」の授業は普及していないのを感じます。もっとたくさんの学校で、このような授業を行うことや、国内の問題だけではなく、国際的な、もっと広い視野でもっと多くの視点から見るが必要な問題も解決できるのではないのでしょうか。

世界にはたくさん問題、課題があります。国内だけでも、高齢化、少子化、沖縄、米軍基地、年金など、数え切れないほどです。しかし、これらの問題のほとんどを、今の私たちは名前を知っているだけで、中身は全く知らないのです。それどころか、知ろうともしません。「多文化共生」の授業をもっと普及させることで、みんなが興味を持ち、問題について深く考え、解決しようとすると考えています。そうすることで、今よりたくさんの人たちが、世界の未来について考え、想像し、より良いものになるように努力するのではないのでしょうか。そして、みんなで、平和で安全な未来を作っていけると私は考えています。

思いやりの教育

(原文)

畑岡 美代 (16 歳)

広島県

広島女学院中学高等学校

よりよい未来とは、「積極的平和」な世界が最大要素だと私は考えます。そのためには、一人一人が自分や周りの人々に向き合い、大切にし合えるようになって、自分の意見を持てるようになるための教育が必要です。

自分を好きになることで、自分を大切にできるようになると思います。私は自分にしかできないことや特技を見つけることで、自分が好きになれると思います。だから、勉強を含め、できるだけ多くを学び、経験や体験を小さい頃から積むことによって、その人の可能性を広げる必要があると思います。教育とは学問を身につけたり、個性を見つけたり磨いたりすることだと考えます。

他人を理解し、大切にするために、私は主に 3 つ必要だと考える教育があります。

1 つ目は、本を通じた教育です。本を通じて、いろんな世界を想像したり、多種多様な価値観に触れたり、いろんなことを熟考する機会が得られます。頭の柔軟な幼いうちからこのような経験をすることで、感受性が豊かで、人の気持ちを考えることができるようになってと思います。ですから、幼いうち、字が読めないうちは読み聞かせを、字が読めるようになったら読書をする習慣をつける必要があります。

2 つ目は、歴史を通して未来を考えることです。中学 2 年生の頃、世界の原爆観を学ぶために、アジアや米国、欧州諸国の中学校の教科書を読む機会がありました。アジアや欧州のものにはほとんど原爆についての記載はなく、米国のものには主にマンハッタン計画のことだけで被害についての記載はありませんでした。私はこの時、歴史は各国それぞれ異なった認識をしていると知り、とても驚きました。また、自国にとって都合の悪いことは教科書に載せようとしないのでは、と考えるようになりました。同じ失敗を繰り返さないためには、自国の暗い歴史も学ぶべきです。そこで私は、歴史の教科書に国際基準を設けることを提案します。いろんな視点から見て必要だと思われることをまとめ、どんな人がどんな意見を持っているのかを載せたらいいと思います。そして、ただ覚えるだけでなく、自分はどうかを考える時間をつくるべきです。

3 つ目は、いろんな国の文化や言語を広く学ぶことです。これからどんどんグローバル化していく中で、異文化圏の人と関わる機会は増え続けるでしょう。他文化を理解することは時に難しいかもしれませんが、文化と文化の違いが差別を生むこともあります。文化は優劣をつけるべきものではありません。

せん。幼い頃から多文化に触れ、親しむことで、多文化共生がなんの気配りもなくできるようになります。私はバイリンガルの子に憧れます。赤ちゃんの頃から2ヶ国語をきいて育ってきた彼にとって、それらを習得したり、使い分けたりすることは、何の苦もないそうです。私は英語しか勉強していません。習いはじめて4年がたちますが、まだまだです。また、文化と言語には密接な関係があるので、共に学ぶべきだと考えます。

教育において要となるものの1つは頭の柔らかさだと思います。頭の柔らかいうち、つまり幼いうちに、質の高い習慣をつけることが、何よりも大切だと思います。そのためには、周りの大人の理解が欠かせません。理解してもらうために、モデル地域のようなものをつくり、具体的に示せばいいと思います。

自分や他人を思いやれる人を育てる学びが積極的平和な世界、という未来をつくるために必要な教育である、と私は考えます。

統合のための教育

(原文は英語)

ブリーティカ・ラヴィラジャ (18 歳)

インド・タミル・ナードゥ州

ティップス・グローバル・インスティテュート

私たちには義務からやることと、興味からやることの両方があります。でもその 2 つの間には、関心がないことによって拡大する大きな隔たりがあります。重要なことをする際に、必要性和興味とを結びつける唯一の方法は、教育です。

現在の教育制度は、特にインドのような国では、有益なサービスというよりむしろ、ビジネスとなっています。大半が暗記していい点数を取るためのものです。大学入学資格試験で満点を取る受験者が年々増えていますが、学習の質は急激に低下しています。教師は生徒にいい点を取らせようとし、給料が上がるからです。学校側も生徒にいい点を取らせようとし、入学希望者が増えるからです。親たちも同様です。社会の中で、子どもを自慢したいからです。そして遂に、子どもたちは悪環境の中で迷ってしまうのです。このような子どもたちが成長した時、既にストレスによって自分だけの世界に入り込んでいたとしたら、社会の幸福や世界的な問題に貢献することを、どう期待できるでしょうか。これは、外の世界と繋がることの必要性を示しています。

数か月前、アメリカへ修学旅行に行った時のことです。アメリカにはミニサイズのペットボトルの水の半値の炭酸飲料がありますが、私のように炭酸飲料が好きではない者にとっては、災難です。何時間も歩いた後の極度ののどの渇きに耐えるか、時々財布に大穴を開けるに等しいことをするか、どちらかの選択を迫られました。その時、枯れつつある地球の水資源のことを痛感しました。私は何年も「水資源の保護」というテーマで論文を書いていて、賞も受けました。「水を大切に」というポスターも学校の掲示用にたくさん作りましたが、本当の渇きと水の必要性を経験するまで、蛇口から水滴が漏れていたり、水槽から水があふれたりしていることを何一つ気に留めなかったのです。今は、入浴する際は以前の半分の量の水しか使いません。また、ペットボトルの水の最後の一口を捨てることもしません。小さなステップかもしれませんが、毎日数リットルずつ節水すれば、私の孫の世代のためにきれいな水の池を残せると信じています。私は水資源の枯渇に対して以前は無関心でしたが、そのことで教育を非難することはできません。この問題はもう 10 年以上、私に向かって発せられていたからです。ですから、教育上の必要性を満たすのは、すべて自分で実感することにかかっています。物事の必要性が変化することによって、解決策に行きつくのです。

外国での経験だけでなく、身近な場所で感じられる問題もたくさんあります。家庭や近隣から始め

ることができるのです。学校は、生徒たちに教科書の写真だけではなく、木陰で授業をして地球温暖化を教え、また太陽の下で他人とつながるようにしてもらいたいと思います。そうすれば皆、どんな教科書よりも 10 倍深く、問題について考えられると思います。身をもって経験することで、私たちは問題と結びつくようになります。私たちが直面している問題に対して個人的に責任を持つようになります。そうすると次は、無理強いや外からの動機づけからは決して導き出されることのない、思慮深い解決策が生まれます。このプロセスは、自分たちで必要性を感じ、問題点を変えようと行動を起こした時のみ、達成されます。

このような教育法は、実際に体験することを促し、問題に対する無関心を急激に減らすでしょう。世界的な難題や身近な問題に取り組むためだけでなく、子どもたちの態度や行動の大半を形作ることになる教科についても、この方法で教えることができます。

どういうやり方をするかは実践することで向上していきますが、基本的な考えは、子どもたちを問題に直面させ、必要性を認識して現実とのギャップを埋められるようにすることです。世界的、または個人的な問題を取り上げましょう。変化の必要性を感じて行動を起こすまで、解決策は得られないでしょう。私たちが変化を起こしていきましょう。

良識を教えることがより良い未来の鍵となる

(原文は英語)

ピトウ・ケオ (19 歳)

カンボジア<英国サリー州在住>

ケンブリッジ・チューターズ・カレッジ

人類はすべての人々とこの地球を分かち合えるよう、道徳的であろう、持続する世界を築こうという大志を抱いてきました。歴史を紐解いてみると、教育制度を完璧なものとする努力がいつの時代にも払われていることがわかります。教育は人類の夢を実現するのに効果のある道具だと信じられているからです。しかしながら人類は知性のみを、特に技術的なノウハウをととも重視してきました。

知性に基づく社会が築かれても、地域の問題から国際的な問題まで、さまざまな難題がいまだに残っています。不公平な富の分配、紛争、資源の搾取、持続不可能な開発といった問題は、人間性の崩壊を示しています。人類は過激な方法で暴力や差別を繰り返し、同じ人間に対する共感を失ってしまいました。これから何千年もこの惑星を分かち合っていくという目的を忘れ、持てる力の全てを今現在のことだけに注入しているように思えます。教育を通じて技術の進歩がもたらされているとはいえ、人間に関する教育がいまだに欠けているのは明らかです。私が思い描く理想の教育とは、人々の志を正しい目的に向かわせるために、人の心に良識を育むことを重視するものです。

志は非常に危険な力を秘めています。任務を全うしようと人を駆り立てる力があり、大勢の人々が同じ志を受け入れた場合は、社会変革をもたらす燃料となります。聖人と戦士には、志を抱いているという共通点があります。志があるからこそ、自分より偉大な大義に身を捧げるのです。従って、教育制度に良識の教えを組みこみ、努力と時間を正しい目的のために向かわせることが極めて重要です。分別を身につけさせるためには、自我を育て、周囲の認識や他者への共感ができるようにする教育が必要です。

自我が確立し、周囲を認識できる人は、自分の行動についてより良い決断を下すことができます。子どもには、幼い頃から自分や他人の行動を観察し、行動した結果が自分自身に、そして集団としての社会にどんな結果をもたらすかを考えさせるべきです。子どもが質問し、自分の考えを教育者と話し合うのが理想です。このような洞察力を育む教育を行うことで、これからの次代を担う子どもの心に本来備わっている好奇心も、世の中の問題に対する思いやりも育まれていくのです。

また、共感ができる人は、他人の行動やその背景をより良く理解することができます。興味深いことに、私たちは年を取るにつれ、必然的にさまざまな人の話や意見、イデオロギーに触れることになります。私たちは自分の考えに夢中になるあまり、人の考えが耳に入りにくいときもあります。しか

も、今は人類の未来のためにインパクトのある決定を下せる時代です。従って、人々が相手の話を聞いて理解し合い、相手を見下ろしたいという誘惑に駆られず、互いの視点から世界を見ることができるのは極めて重要なことです。共感ができれば、自分だけでなく他の人も自由に生きたいと望んでいることを受け入れられるでしょう。皆それぞれに苦しみを味わっていると知ること、私たちは互いに認識の欠けている部分を埋め、共通の合意と解決策にこぎつけられるはずです。

認識と共感によって、私たちが住む世界には限界があることをより良く理解し、人生においてより賢明な志を抱けるようになります。より賢明で、より素晴らしい目的をもって生きられるようになれば、自分自身にも、そして個人の集合体としての世界にも役立つにちがいありません。

さらに上の段階として、分別の教育を多様化して世界の多くの人々に広めることが挙げられると思います。世界には飢餓、貧困、差別、戦争に苦しんでいる人々がいます。そういう人々は怒りやすく、不安や悲しみを抱え、復讐心にとらわれ、目先の満足を追い求めがちですが、自分では意識していなくても、賢明で平和で持続可能な未来を求める気持ちは生まれながらに備わっていると、私は固く信じています。さらに、分別を育む教育を施すべく皆が力を合わせることで、誰にとっても良い世界を築く旅が始まるはずです。

変化する世界で未来型の教育を思い描く

(原文は英語)

イン・チン・ティー (25 歳)

マレーシア

マラヤ大学

教育は、私たちが今日、そして将来遭遇する多くのグローバルな難題への鍵であり、恐らく万能薬と思われます。今日の戦争やテロ、犯罪、エネルギー資源の枯渇、地球温暖化、自然災害、伝染病、経済危機、そして明日、私たちにのしかかってくる無数の難題を前にして、教育はどのような役割を果たしているのでしょうか。変化が基本であり常に移り変わるこの世界で、長い目で見て平和と調和と幸福が保たれた世界を確立する理想的な教育とは何でしょうか。また、どのようなものであるべきなのでしょうか。

私は若く未熟な教育者ですが、相互に依存するコミュニティの中の人間としての、全体論的な成長過程として、理想的な教育を思い描いています。それは各個人が生まれ持った才能を伸ばし、固有の可能性を活用して一丸となって、世界平和に貢献する機会を与えられるような場を提供するというものです。学校は極小の社会で、家と現実世界をつないでいる境目です。この小さなコミュニティの中で、生徒たちはコミュニティ全体を良くするために指導力を発揮し、決定を下し、協力して問題を解決したりするのでしょうか。今日でさえ、人生の可能性を実現できない生徒や、何年も教育を受けた後で無意味な苦勞を伴う仕事をしている生徒がいます。仕事に情熱を持っていなければ、その人が周りの世界にどれだけ価値のある貢献ができるかは分かりません。

さらに、この成長の過程の中で継続して人格が形成され、育てられていきます。今日の世界中の教育制度は、批評的で革新的、または創造性のある考え方をさせ、生徒の知的能力を伸ばすことに重点が置かれています。そして、人格を形成する重要性は軽視され、窓外に投げ出され、能力や知識を伸ばすことに焦点が当てられているのです。この分かりやすい例としては、生徒の成功の証として、テスト結果が重視されすぎていることが挙げられます。この風潮は今もなお、世界中の多くの場所で文化として深く根付いています。教育に対するこのアプローチは、時代遅れで偏ったものです。これには、生徒たちに真実と高潔さを支持させる力はほとんどなく、世界の複雑な問題に取り組む実践的な解決法を考案することもできないからです。いわゆる「成功」と考えられてきたものを見直すべきです。私たちはどの程度、思い違いをしているのでしょうか。

戦争と敵意が普通である世界では特に、肯定的な価値や長所を伸ばしていくことが重要だと強く主張します。これはすべてのレベルの教育を通して、現在と未来いずれの生徒たちにおいても、当ては

まります。道徳が無視され、踏みにじられているような今日の世界で、価値や長所は守られるべきです。これは教育によってのみ、達成されます。良い価値観によってのみ、世界中の人々は世界平和を守り、重んじることができるのです。また、内側からあふれてくる良心によってのみ、私たちは共に悪や困難に打ち勝つことができるのです。愛は世界中の市民の一体感を高め、共に平和で幸福な世界を作るための最強の刺激剤となります。また、世界の平和のためになされる意思決定の、すべての基礎となります。相互にネットワークがつながっているこの世界では、地球上のそれぞれの人、それぞれの国の幸福が、共通の責任なのです。愛は生徒たちに、世界が今現在、忍耐強く向き合っている差し迫った問題を気づかせ、それに共感し、立ち向かわせる力となるでしょう。

持続可能な教育を目指して努力することは、すべての人に平等な機会を提供することも意味します。それは人種や社会的地位、政治的イデオロギー、信仰、国籍は関係ない、世界的に統一された教育です。

国境がもはや政治的衝突ではなく、協調の元となった時ようやく、
私たちがお互いを競争相手ではなく協力し合う仲間と認める時、
一体感と愛を持って手と心を合わせた時、
単に国としてではなく地球全体として見た時、
全世界が一つになる時、
その時、教育は持続可能なものになると保証できる。教育は今日の人々のニーズを満たし、
明日の課題を一丸となって乗り越える手段になる。
話が大きすぎるように感じるかもしれないが、私たちは一つになれる。
一つになれば、不可能なことは何もない。

2016年度国際ユース作文コンテスト応募者の地域分布

地域名	子どもの部	若者の部	応募数	全応募数に占める割合(%)
日本	1,954	976	2,930	22.6
アジア (日本以外)	972	3,049	4,021	31.1
大洋州	86	65	151	1.2
中東	62	98	160	1.2
ヨーロッパ	337	985	1,322	10.2
アフリカ	220	1,394	1,614	12.5
北米	151	185	336	2.6
中南米	571	1,832	2,403	18.6
合 計	4,353	8,584	12,937	100.0

